

新潟労働局長が「ベストプラクティス企業」への 職場訪問を行いました。 Report

11月は過重労働解消
キャンペーン月間

新潟労働局長（局長 吉野 彰一）は、令和4年11月8日（火）に、働き方改革に積極的な取組を行っている「ベストプラクティス企業」への職場訪問を行いました。企業の取組をご紹介します。

- 訪問企業：アルプスアルパイン株式会社（長岡工場） **ALPSALPINE**
- ・所在地 新潟県長岡市東高見
 - ・従業員数 1,250名（長岡工場）
 - ・事業概要 電子部品等製造業

取組の目的

- 生産性向上により、事業競争力を高めること
- 仕事と家庭の両立を図ること



働き方改革に向けた主な取組

- 労働時間の見える化
労使協議会で高負荷職場の把握と対策を毎月議論
労務実績、従業員満足度等を踏まえ負荷分散
- RPA※による業務効率化
人が居なくても必要な作業ができる領域の拡大
※「Robotic Process Automation」の頭文字をとった略称。ソフトウェアロボットが、事務系の定型作業を自動化、代行するツール。定型的で反復作業をともなう事務作業は、RPAで自動化することにより飛躍的に効率化する。
- 意識風土改革
労働時間、年休取得の目標値設定、
各支部労使の取組・活動状況の周知
- 仕事の5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）推進
顧客にとって価値の無い仕事をやめる＝整理
仕事の負荷や偏りをなくし流れを整える＝整頓
など

取組の成果・効果

- 所定外労働時間の削減(一人当たり月平均時間数)
・2017年度 18.0時間 → 2021年度 8.9時間
- 年次有給休暇取得日数の増加(一人当たり年平均日数)
・2017年度 11.8日 → 2021年度 14.7日
- 3年離職率の改善
・2015年度 10.0% → 2019年度 4.2%

今後の取組方針

- 管理職の負荷低減
一般職に比べ管理職の働き方改革が進んでいない実態の改善に取組む

